

令和8年7月24日 開会

令和8年度 第1回紫波町総合教育会議 議事録

令和8年度 第1回紫波町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和8年7月24日 午後2時から午後3時35分まで

2 場 所 紫波町役場 会議室304・305

3 出席者

町長	鎌田千市
教育委員会 教育長	侘美 淳
教育委員会 教育長職務代理者	畠山 秀一郎
教育委員会 委員	滝澤 真千子
教育委員会 委員	内城 寛子
教育委員会 委員	川村 政子

4 説明員

企画総務部長	山上 里香
教育部長	葛 博之
地域づくり課長	森川 高博
学校教育課長	上田 淳悟
生涯学習課長	小川 篤
こども課長	須川 範一
教育総務課副課長	熊谷 拓也
学校教育課副課長	藤原 慎也
生涯学習課副課長	橋本 豊
生涯学習課歴史文化係長	岩 舘 岳
企画課総合政策係長	金子 裕之

報 告

- (1) 紫波町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- (2) 元長岡小学校活用事業（ノウルプロジェクト）について
- (3) いじめ防止等のための条例整備の検討について

議 題

中学校部活動「休日の地域展開」について

議事の概要

(開会 午後2時)

○ 教育部長

ただ今から令和8年度第1回紫波町総合教育会議を開会いたします。開会に際しまして、町長よりご挨拶申し上げます。

○ 町長

改めまして皆さんこんにちは。本日は、第1回紫波町総合教育会議にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。委員の皆様におかれましては、紫波町の教育行政に多大なるご支援等をいただいておりますことに感謝申し上げます。

先月まちづくり座談会を開催いたしました。町内9か所で、例年よりも多くの町民の方にご参加いただきました。町長が変わったということもあって様々ご意見をいただきました。

教育分野についても、スクールバスの運行、熊の出没に伴う送迎対応などご意見をいただいております。

本日は、報告事項3件と議事1件になります。まちづくり座談会でも話題になった部活動の地域展開について議題としております。全国的な課題であると認識しておりました。教育委員会のみならず、町長部局においても、子どもたちの環境を整えることは大事だと思っておりますので、ぜひ、ご忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 教育部長

それでは次に教育長よりご挨拶申し上げます。

○ 教育長

総合教育会議は、町のトップリーダーである町長と教育委員が意思疎通を図って、地域の教育課題について協議したり、共通理解を図ったりする趣旨であります。地域の教育課題について、同じ方向を向いて進んで行くことができればなと思っております。

部活動が今日のメインテーマになります。今日とか1年とかで決着のつく問題ではありません。あっという間に5年、6年たちます。今の中学生が大人になり、今度は自分たちが担う立場になると思っています。息の長い取組です。今日はご審議の程よろしくお願いいたします。

○ 教育部長

それでは、4の報告に入ります。3件ございますけれども、まとめてご報告申し上げます。

まず1点目、「紫波町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」、教育総務課よりご報告申し上げます。

(教育総務課 熊谷副課長 説明)

○ 教育部長

続きまして(2)の「元長岡小学校活用事業（ノウルプロジェクト）について」、地域づくり課よりご報告申し上げます。

（森川地域づくり課長 説明）

○ 教育部長

続きまして(3)の「いじめ防止等のための条例整備の検討について」、学校教育課よりご報告申し上げます。

（上田学校教育課長 説明）

○ 教育部長

ただ今、3件報告いたしました。皆様からご質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○ 教育部長

それでは5の議事に入ります。紫波町総合教育会議設置要綱第4第1項の規定によりここからの進行は町長にお願いいたします。

○ 町長

それでは、議事の「中学校部活動『休日の地域展開』について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

（上田学校教育課長説明）

○ 町長

ありがとうございました。説明のあった事項について、確認やご質問・ご意見等をお願いします。よろしいでしょうか。

○ 町長

それでは、協議に入ります。

部活動の地域展開は、地域全体で子供たちの成長を支え、スポーツ、そして文化活動の機会を創出することが目的であり、それを持続可能なものにするという観点があるかと思います。

先ほど説明のあった資料5ページに記載された、3つの視点、地域全体で子どもたちの活動を支える「まちづくり」の視点、指導者の質の担保と認定クラブの見える化の視点、競技志向の生徒と楽しみながら活動したい生徒への対応の視点を中心にご意見をいただければと思います。

○ 内城委員

私は、岩手県スポーツ協会の理事等をしております。紫波町だけではなくて、県全体の部活動の地域展開について意見を述べる立場にありました。地域ごとの課題であるとか、指導者の問題、保護者負担などについても理解しております。また、紫波町の部活動地域展開推進協議会の方でも関わっております。

紫波町に関しては、少子化が進んでいる地域であるとか、競技が限られた状況のなかで活動している地域とは、まったく違う様相を示していて、選択の余地等がある町であると思っていました。その中からすると、焦燥感というよりは、選択肢をどう増やしていくという中での、前向きな議論ができる地域の一つではないかと思います。県内では前向きな議論ができる地域が少ないと思います。

紫波町は様々な視点でまちづくりを行っています。その土壌や枠組みもありますので、そこに文化・スポーツの視点を入れ込んでいけば良いと思います。具体的には先ほど報告いただいた旧学校施設の跡地活用を含め、活動の「拠点」があれば助かるなと思います。スポーツをする上では荷物が多い、道具が多いということがあります。荷物等の保管など今まで学校が担ってきた部分を地域クラブ等の指導者だけでは担えない感覚があります。また、自由に使える会議室とかもあった方がよいなと思います。関係者の人たちが物を置け、活動を推進できる「拠点」というものがこれから議論されていけばいいなと思っていました。

また、指導者の質の担保と認定クラブの「見える化」に関して、これまで紫波町スポーツ協会では指導者講習会を年1回、ハラスメントやコンプライアンスに関する研修をやっておりますので、ある程度、質の保障はされております。これから新たに関わってくる方々にも研修の場について周知し、活用されていけば良いのではないかと思います。

一方で一番難しいと思っているのは、クラブ運営者側の話になってしまうんですけども、競技志向の生徒と一般的な活動のすみ分けが、同一クラブ内で行われるのが望ましいのか、目的ごとに別のクラブとして運営をしていくのかということ、各クラブがどのように考えていくのかということです。これに加えて、多様な個性を持つ子供たちが関わってきますので、そういった保護者や子供たちに合わせた活動をしていくと、競技志向と一般的の二極化ではなくて、多様な対策・準備が必要なのではないかと思います。

これらの枠組み、支援を学校の部活動が担ってきたわけですが、これを地域の大人が担っていくとなると非常に負担であり、また喜びでもあります。その価値をどのように築いていくか、価値づけが重要です。ヨーロッパの指導者はとても尊敬されております。そういった中で、スポーツ指導の恩恵を町全体が受けられている状況です。そういった価値づけや意義づけみたいなものを我々も考えていけば良いのではないかなと思います。

○ 町長

ありがとうございます。大事な視点をたくさんいただいたと思います。

恵まれた環境という話があったと思います。ある程度大きな市であるとまた逆の難しさがある

紫波町は手ごろな規模であると思うのですが、その辺りはどう思われますか。同一競技で複数のクラブチームがあまりないと思っています。

○ 内城委員

私としては、複数のチームがあった方が良いと思います。規模の大きな自治体の方が展開しやすく、多様な価値観を持って選択できる環境が地域展開には必要だと思っています。指導者との相性や競技志向の違いなど様々な要素があります。例えば、サッカーは多様な受け皿があると思います。プロ化が進んでいるところがあったり、地域や個人でやっているところがあったりとか。多様な形があるのが望ましい。20 年くらい前からそういうのが準備できていればよかったなと思っています。画一化されてしまうと受け手である子供たちや保護者からして見れば狭い選択肢で選ばなければいけなくなっています。

○ 町長

そうですね。選択肢をどう増やすかというのは最初にもお話いただいたことではあります。あと一点だけ、お金の面はどうですか。

○ 内城委員

お金に関しては、一律である必要はないと思います。私立高校と公立高校の部活動のあり方が多様で、私立高校の中でも強化していく部活動とそうでない部活動があります。かける費用が競技団体とか競技レベルによって変わってくるのは必然だと思います。それを部活動だからとかスポーツ活動だからとかいう理由で均一化する方が難しいですし、選択肢を狭めてしまうと思います。お金をかけられるご家庭は、よりよい環境を整えたいと思うでしょうし、逆にスポーツは体験レベルで良いと考える家庭は金銭的に負担なくやらせたいと思うでしょう。そのため、準備する側、受け皿となる側、指導者側が組織を運営する上で関係団体と相談しながら、もしくはスポンサーを得ながら、活動していけば良いのではないかなと思います。

○ 町長

ありがとうございました。続いていかがでしょうか。

○ 畠山教育長職務代理

私は現在、紫波西学園の学校運営協議会の会長をしています。ここでも部活動についての話が話題となっています。昨年度から部活動支援を保護者がまずやろうということで、中総体、新人戦の前の約 10 日間、平日の放課後 5 時以降の活動を保護者が指導者として支援をしていこうという取組が始まりました。今年度も引き続き、取組が行われているということでもあります。

保護者の方々は仕事をしているので色々なご都合もあって、中々大変な取組だと思います。そこを地域の経験者を募って保護者と地域がタッグを組んで学校の先生方の部活動に係る労力の軽減を

図りたいということで話をしております。まだ話合いの段階で、具体的なアクションはこれからです。地域と保護者と学校の三者が連携をして、課題を克服していければいいなと思っております。まずは、保護者の指導者としての協力体制を作っていきたいなと思っております。

○ 町長

ありがとうございます。西学園では、競技活動や文化活動、どのくらいの活動が話合いの土俵にあがっているのでしょうか。

○ 畠山教育長職務代理

正確な数は押さえていないです。保護者が動き始めてまずスタートしました。プラスアルファ地域の協力できる人を少しでも募れば充実していくのではないかと考えております。

○ 町長

ありがとうございます。行政が仕掛けるというより、地域の人たち、顔の見える関係から広がっていく、指導者が見つかっていくというのは理想的かもしれないですね。

○ 畠山教育長職務代理

子どもたちにも、保護者だけではなくて地域の方々が支援をしてくれるという実感をもってもらって、自分たちの地域の方々は素晴らしいなという思いをもってもらいたい、そこから地域の魅力を感じることができるのではないかと思います。

以前、私が中学校の教員をしていたときに「私の主張」で紫波第二中学校の生徒が紫波郡で最優秀賞をいただいたことがあります。その内容は、地域行事に関わる体験から地域のすばらしさを感じた、将来はこの地域に戻ってきたい、というものでした。このように感じる子供が1人でも2人でも増えてくればいいなと思っています。

部活動等を通じて地域の人との関わりの中で、そのような実感をしてもらえればいいなと思います。

○ 町長

ありがとうございます。まったくその通りだと思います。

○ 滝澤委員

部活動の地域展開は、まさに大人の出番だなと感じておりました。体育館の鍵管理やスポ少への引継ぎなど、親の出番があります。仕事があって大変なのは皆さん同じなので、自分の子どもが部活動を頑張る3年間は互いに協力して、力添えをしていただければ、それを元に子どもの健やかな成長を見守っていけるのかなと実感しております。

まちづくりの視点としては、地域のさんさ踊りであったり神楽であったり、そういった文化活動

も展開していけば、担い手不足の解消にもつながるのではないかと、盛り上がりにつながるのではないかと思います。

認定クラブの部分について、遠征であったり、練習試合だったり、バスでの移動という部分が出てくると思います。その際のガイドラインがないと保護者としては心配なので、作成する必要があるのではないかと思います。子どもたちの命を守るということを考えると、早く取り組んだ方が良いのかなと感じました。

競技志向と一般的な活動のすみ分けの部分については、内城委員もおっしゃったとおり、多様性の時代なのでこれは長いスパンをかけて作り上げていくものだと思います。長い期間をかけて作り上げていく中で、その時の親というのは、今の子どもたちだと思います。学校で子どもたちが部活動の地域展開について話し合う場があれば、今の子どもたちが親になった時に将来的につながっていくのではないかと思います。

○ 町長

ありがとうございます。先ほどさんさとか神楽の話があったかと思います。生涯学習課の担当者からその辺りご紹介をお願いします。

(岩館歴史文化係長説明)

続きまして、川村委員をお願いします。

○ 川村委員

この問題に関しては、子どもや大人だけではなく、どの世代も含めて話をしていかなければならないと思います。

紫波第二中学校は部活動の選択肢が少ないので地域展開をすることによって様々な活動に挑戦できる機会が得られるし、子どもたちの可能性も広がるのではないかと期待しています。

私は東部地区に住んでいるので、彦部小学校跡地活用については、地元民にとってはとてもありがたく感じております。活用をきっかけに地域に人が集まったり、イベントがあったり、賑わいが生まれています。

郷土芸能については、先日参加した研修会のオープニングで乙部中学校の生徒がさんさ踊りを披露したのですが、そのときの資料に、乙部中学校の生徒は7つの郷土芸能のうち、どこかに必ず所属することになっていると書かれていました。紫波第二中学校や紫波第三中学校と規模が同じくらいですし、各地区に郷土芸能がある点も似ているのではないかと思います。乙部中学校の取組についても1つのモデルとして、参考になるのではないかと思います。

保護者の方々の話を伺うと、どこでどんな活動ができるか、いつできるのかという情報が十分届いていないのではないかと感じます。現在は町内だけではなく、花巻市や盛岡市など町外で活動する子どもも増えているなど感じています。町としての取組だけではなく、将来的には広域化も見据えていく必要があると思います。

競技志向と一般的な活動のすみ分けについては、熱量の違いやレベルの違いによって、人間関係

がうまくいかないケースもあると聞いています。そのような事情から続けたくないな、辞めたいなという気持ちを抱えている生徒さんもいました。そういった事情からクラブの目的の位置づけを明確にしなければいけないと思います。強いクラブであれば、遠征費等もかかりますし、金銭的な部分も見える化しておけば、選択する際の判断材料になると思います。

○ 町長

ありがとうございます。教育長はいかがでしょう。

○ 侘美教育長

四半世紀前に学校週5日制が始まりました。その狙いは何だったかというのと、学校以外で広く一般的に社会体験や自然体験を積ませたいというものでした。今ととても状況が似ています。当時も現場からすると上意下達的に進められたという印象がありました。今回の部活動の地域展開についても、少子化とか教職員の働き方改革といった課題への対応策として進められている側面があると思います。

しかし、学校週5日制については、すぐに頓挫しました。狙いとは違った活動に時間が使われました。今回も形だけ整えただけでは学校週5日制のときと同じになるので、そもそも部活動の地域展開は何のためにするのか、将来を見据えながら過渡期をどのようにするか、プロセスをどう踏んでいくかなど引き続き考えながら、議論しながら進めていきたいと思っています。

○ 町長

ありがとうございます。一巡しましたけれども、補足等がある方はいますか。

○ 内城委員

私が今、運営しているテニスクラブについて紹介させていただきます。紫波町には硬式テニスの部活動がなかったので、テニスクラブの活動を通じて紫波町に誇りを持って欲しいと思い、クラブの運営理念に「紫波町を愛すること」を掲げています。

東北大会のチャンピオンが複数名誕生しておりますが、近年は他県での強化活動は最近はやらなくなりました。自分たちのチームの中で協働と競争を重ねていき、必要であれば指導者を招いて活動しています。また、合宿もしていません。町内のスポーツ施設で活動をしている中で成果を上げることができた好事例かなと思っておりました。20年間活動を続ける中で、紫波町の子どもたちがテニスを好きになって、やってくれる子どもたちが増えてきてくれて、「文化」が起きたなと私自身は思っております。また、バレーボールの活動も盛んになっているし、紫波町はいろいろな価値観を持った人が自立した活動をしているし、それを選択できる保護者の方々も視野が広いと思うので、紫波町の部活動の地域展開は、恐らくは成功するのではないかと考えています。

○ 町長

ありがとうございます。

○ 畠山教育長職務代理

質問があります。資料の中に、部活動指導員の配置に係る経費の補助について記載があります。これは国から補助があるということですか。

○ 上田学校教育課長

国からの補助ですが、こちらは学校の部活動の中で地域の方などが指導者として活動する場合の補助です。

○町長

よろしいでしょうか。

たくさんのご意見をいただきありがとうございました。様々な視点をいただきましたが、本当に大事な視点があったなと思います。紫波町の環境は、希望が持てるんだろうなど、内城委員の発言から思いました。子どもたちが選択できる、選択肢を増やしてあげるのが必要なんだなど。ただ一方で、川村委員の話にもありました、どんなチームかわからない、どんな活動をしているかわからないといった情報が十分に伝わっていないというご指摘もあり、選択は情報がないとできないなということを改めて感じました。

また、学校跡地についてはだいぶ民間活用が進みましたが、スポーツ施設を含めて「拠点」の有無が活動を継続し、地域に根付かせる上で非常に重要な要素であると感じました。

お金の話も聞きましたが、それも含めてチームの姿勢というのが必要なだろうと。これは均一化することで、かえって活動を狭めるという意見があり、その通りだなと感じた次第です。

伝統芸能に関する意見もいただきました。文化と歴史を大事にしないと、その町は廃れるともいいます。子どもたちをキーにして、地域が元気になっていく、継続していくという取組が必要だなと思った次第であります。

指導者やチームの熱量、活動レベルという部分は、押し付けるわけにもいかないので、そういった部分も含めて選択していただくというのが必要なんだなと思いました。

最後に「将来、紫波に戻ってきたい」とか「子どもたちが関わりながら自分自身も成長する」という話についてです。この地域展開を課題と捉えずに地域を発展させていく、つながりを作っていく、キーワードとしてうまく転換していけば、紫波町モデルになり得るのかなと思った次第であります。

ありがとうございました。

○ 町長

それでは、本日の議事については終了とさせていただきます。進行を事務局にお返しします。

○ 教育部長

続きまして、6のその他に入ります。事務局では特にございませんが、皆様から何かございますでしょうか。

なければ、以上をもちまして、令和8年度第1回紫波町総合教育会議を閉会いたします。

(閉会 午後3時35分)